



産山の小中一貫教育

10周年記念誌



平成28年10月

産山村教育委員会
産山村立産山小・中学校

産山の小中一貫教育（10周年記念誌）

目 次

I あいさつ

産山村長	市原 正文	・・・・・・・・・・	2
産山村教育長	工藤 圭一郎	・・・・・・・・・・	3
産山小学校長	河津 伸哉	・・・・・・・・・・	4
産山中学校長	有住 尚之	・・・・・・・・・・	5

II 産山村小中一貫教育10年の歩み

・・・・・・・・・・ 6

III 産山の特色ある教育とその成果

1	二学期制によるきめ細やかな評価	・・・・・・・・・・	10
2	保小中一貫教育による学びの連続性	・・・・・・・・・・	10
3	特色ある教育課程	・・・・・・・・・・	10
4	学びをつなぐ連携システム	・・・・・・・・・・	12
5	ICTを活用した確かな学び	・・・・・・・・・・	13
6	地域とともにある学校	・・・・・・・・・・	14

※ 校 歌

I あ い さ つ



小中一貫教育十周年記念に寄せて

産山村長 市原 正文

産山小学校が開校されると同時に、内閣府の小中一貫教育特区として県下に先駆けて小中一貫教育がスタートしたのは平成19年度のことでした。それから早10年。感慨もひとしおです。

産山村は、高齢化と人口減少という問題を抱えており、これまで「新たな魅力ある村づくりを目指す」という地域自立促進の基本方針を策定し、「人が地域を創る」という視点をもって産山村の教育改革を進めてきました。

「子供たちが産山で教育を受けて良かったという実感を持ち、将来、有為な人材に育ててほしい。」これが産山村民の願いです。

この間、小中一貫教育を地域から下支えするものとして学校運営協議会を設立し、地域住民による産山小中コミュニティ・スクールを立ち上げたり、保育園を教育委員会の管轄に置き保小中一貫教育に組織を拡大したりして、0歳からの育ちをつなぐ一貫教育を目指して取り組んでまいりました。家庭、地域の教育力を積極的に導入し、保育園・小中学校の段差を低くして教育効果を上げ、ひいては子供たちの夢を叶えるため、村としても最大限の支援に努めているところです。

産山村の教育改革のベクトルは、確かに産山に根ざし、産山村民と共に歩む教育に向けられています。そしてそれは誰のものでもない、産山の子供たちのためのものだと確信しています。

学校教育法が改正され、小中一貫教育が制度化されました。今後とも産山村は「魅力ある村づくり」を目指し、「人が地域を創る」という揺るぎない信念を持って産山村の教育改革を後押ししていく所存です。

最後になりましたが、これまで産山村の教育改革を陰になり日なたになり支えていただいている産山村の方々、そして何よりも「**We have a dream**」を合い言葉に、産山村の教育改革を推し進めている教職員の皆様に感謝申し上げ、お祝いの言葉といたします。



小中一貫教育の成果

産山村教育長 工藤 圭一郎

「産山村の教育改革をどぎゃんかせないかん。」

そうやって立ち上がったのが他ならぬ村内教職員研究会の先輩諸氏でした。専門家の知恵を借りるのではなく、村内小中学校教職員手ずから、「ローカルオペティマム」、いわゆる私たちの村、学校にとって最もふさわしい教育効果を上げることを命題に、まさにゼロベースから産山村の教育改革が始まったのです。

このことがどれほど小中学校教職員の連帯意識を高め、どれほど産山小中一貫教育のデザインを策定する原動力になったことか。そして、当時の産山村教職員研究会の先生方の沸々とした熱い思いが今もなお受け継がれていることを嬉しく思います。

そして今、10年の歳月が過ぎ、その成果が問われようとしています。私たちには、小中一貫教育の3本柱である「ヒゴタイイングリッシュ」「うぶやま学」「チャレンジ学習」、それぞれが着実に成果を積み重ねてきたという自負心があります。それはとりもなおさず、産山村の子供たちに確かな学力をつけたい、産山を知り、産山を愛する子供を育てたい、小学校と中学校の段差を低くして、教育効果を上げたい、そして、子供たちが産山で教育を受けて良かったという実感を持ち、将来、有為な人材に育ててほしいという一心で取り組んできたからに他なりません。

ありがたいことに、昨年12月には、「地域による学校支援活動」で文部科学大臣賞を受賞しました。また今年3月には、日本英語検定協会より多くの子供たちが英語検定を受験し、その成績が非常に優れているとして「優秀団体賞」に選ばれました。これもこれまでの実践の積み重ねの成果です。そして、何よりも毎年夏に行われる成人式で、成人した子供たちが産山で生まれ、産山で学んだことに誇りを持ち、感謝の言葉を述べながら将来への思いを胸を張って語ってくれていること、これこそ産山村にとって最大で最高の成果に他なりません。

平成28年4月1日、学校教育法の一部が改正され、義務教育学校が制度化されました。私たちは今、新たな地平へと向かわねばなりません。私たちには夢があります。小さな村の小さな村でしかできない教育改革を産山村、地域の方々、そして村内教職員の全ての力を結集して成し遂げていくことを誓い、10周年記念の挨拶とします。



小中一貫教育10周年、そして新たなスタート

産山小学校長 河津 伸哉

平成19年4月、村内2つの小学校（産山北部小学校・山鹿小学校）が統合し産山小学校が開校しました。校舎も中学校舎と併設されました。

そして、「この村の子どもたちに確かな学力をつけたい。この村を知り、この村を愛する子どもを育てたい。小学校と中学校の段差を低くして、教育効果を上げたい。さらには、『この村で教育を受けて良かった』と実感を持ち、将来、国際社会において活躍、貢献する有為な人材に育ててほしい。」そうした村民の方々の熱い思いを胸に、本村の小中一貫教育が始まり今年10周年を迎えました。

その間、平成21年度からはコミュニティ・スクールの指定を受け、学校支援地域本部事業を展開することとなり、翌年には「産山小中学校運営協議会」を設立しました。また、平成24年度からは県下で初めて土曜授業を始めました。現在年間10回行っています。また、この年から小中合同の入学式を実施し、小中合同卒業式は平成26年度から実施しました。

小・中学校それぞれで設定してきた教育目標と経営方針を統一したのは、平成26年度からです。村の教育理念「産山で教育を受けて良かったと実感できる教育」、校訓の「We have a dream」にあるように、郷土に誇りを持ち、夢の実現に向け、目標に向かって努力する子どもを小学校と中学校が一貫となって育てていきたいという思いで統一したところです。

小中一貫教育10周年、そして、新たなスタート。本年4月に学校教育法の一部改正がなされました。本校も、この10周年を一つの節目として新たにスタートしたいと考えております。産山村「夢創造」教育指導指針、及び学校教育目標の具現化のため、職員一同が中学校と一つになり尽力してまいりますことを決意いたしまして挨拶いたします。



キーワードは「学びの確実な積み重ね」

産山中学校長 有住 尚之

産山村の小中一貫教育が10年の節目を迎えました。平成19年度、長年の産山村の教育の歴史と実績を土台としてスタートした教育改革。この10年間、先輩諸氏の産山の教育への熱い思いを振り返り、改めて感謝の気持ちを持つとともに、その歴史に自分が身をおけたことに大きな誇りを感じているところです。

10年間の小中一貫教育の営みは、「ローカルオプティマム」（産山村の学校にとって最もふさわしい教育）を目指し、「産山の宝である子どもたちに、どんな力を付けていくのか、そのためにどんな教育を作り上げていくか」村民と学校が一体となつての挑戦の積み重ねであります。この節目に私たちはしっかりとこの10年の教育の成果を検証し、次のステージへチャレンジしなければなりません。ここ数年、「英語暗唱大会での活躍」「学外検定へのチャレンジ」「情報教育推進や学校運営協議会の表彰」など、産山の教育の「積み重ね」の成果を見ることができます。どれも付け焼き刃の取組ではどうてい為し得ない成果です。私たち小中学校職員は、そのような産山の教育に誇りを持ち、まだまだ眠っている子どもたちの可能性を広げ・伸ばすために、保育園そして9年間のそれぞれの段階で、産山の教育による子どもの学びを確実に積み重ねなければなりません。さらに課題を整理しより高い志を持って次の歩みを踏み出します。

2020年新学習指導要領は、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な深化など、社会の加速的変化を受け止め、将来の予測がむずかしい社会のなかでも、「伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志し高く未来を作り出していくために必要な資質・能力を子どもたち一人ひとりに確実に育む学校教育の実現」を目指しています。また、“学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現も示されています。

産山の先進的な教育は、しっかりと新しい時代に対応できるものであると改めて痛感しています。私ども職員一同、学校教育目標：「産山に誇りを持ち、夢の実現に向け、可能性を広げ伸ばす子どもの育成」のもと、「Chance・Challenge・Change・Community」の行動指標をもって、将来の産山村を担う人材の育成に向け、産山の教育における学びを確実に積み上げるとともに、多様で質の高い学びを引き出すことができるよう努力を重ねて参りますこととお誓いして小中一貫教育10周年の挨拶といたします。

Ⅱ 小中一貫教育 10年の歩み

平成19年度（2007）

- ◆ 小中一貫教育スタート
- ◆ 放課後子ども教室スタート

- ◇ 産山北部小と山鹿小が統合し産山小学校となり、校舎が産山中学校と併設され、構造改革特区（小中一貫教育特区）認定を受けて小中一貫教育で特色ある教育活動を展開
- ◇ 平成14年度から始まった「わいわい土曜塾」から「放課後子ども教室」（文科省）へ移行



産山村で小中一貫教育スタート

構造改革特区に認定された産山村では、新しい公立産山小学校の校舎が、小学1年から英語を習うなどの特色を持った小中一貫教育が始まった。

産山には、産山北部小と山鹿小が統合して産山小学校（鉄骨3階建て）は、産山中の敷地内に旧中学校と併設されている。旧小完備は旧入、旧中完備は5人、内閣府の認定を受けたのは昨年11月で、特区の認定を受けて小中一貫教育に取り組むのは、県内では前例に次いで2か所目という。

産山から、甲では、英語教育に力を入れる。小学1年から中学3年まで教科として「英語読科」を導入、小学6年では中学英語を先取りして中学1年の教科書を使って学習を進める。そのほか、郷土に

開校式・小学1年から英語に力

ついて学び、将来の生き方を考える「うぶやま学」や、漢字やパソコンなどの検定にも積極的に取り組んでいる。

開校式には児童や教職員、在郷軍団や地域の町民ら約10人の出席。児童は手話を交えて新しい校舎を披露し、佐藤雄夫校長が「産山を愛し、産山からはばたく子どもたちを育てていきたい」と懇話会を述べた。

6年の佐藤雄樹君（11）は「本の借りがすすむ新しい校舎で好きな科目を履き、苦手な英語も頑張りたい」と期待を込めていた。

開校式に引き続き小、中学校の入学式もあり、児童、生徒は集まって記念撮影に収まり、一貫教育のスタートを飾った。

産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造

- 1 子どもたちに確かな学力をつける。
- 2 郷土を知り、郷土を愛する子どもたちを育てる。
- 3 保育園・小中学校の段差を低くして教育効果を上げる。
- 4 地域と保育園・学校が協力して、学校教育の充実を図る。

<キーワード>

「ローカルオプティマム」

「中1ギャップの解消」

学びの連続性・「じっくり」「しっかり」「のびのび」

学校施設の共有

5・2・2制の導入

特色ある教育課程の編成
(教科・領域の創設)

教科担任制
(小中兼務辞令)

H19. 4. 11 読売新聞より

H25 より保育園を追加

ヒゴタイイングリッシュ

うぶやま学

チャレンジ学習

平成20年度（2008）

- ◆ 「コミュニティ・スクール推進事業」調査研究展開
- ◆ 「産山村小中一貫教育特区」研究発表会を開催



産山にふさわしい学校運営協議会のあり方を検討する研究推進委員会



産山村小中一貫教育研究発表会を開催し、産山村の教育改革の熱い思いを伝える。

- ◇ 平成20・21年度文部科学省「コミュニティ・スクール推進事業」調査研究校に指定され、小中一貫教育を中核に据えた学校運営協議会のあり方の調査研究を開始
- ◇ 11月7日には、内閣府構造改革特区認定「産山村小中一貫教育特区」並びに阿蘇都市教育委員会連絡協議会指定「基礎学力向上推進地域」研究発表会を開催

平成21年度（2009）

- ◆ 文部科学省承認**教育課程特例校**
- ◆ **学校運営協議会の設置**

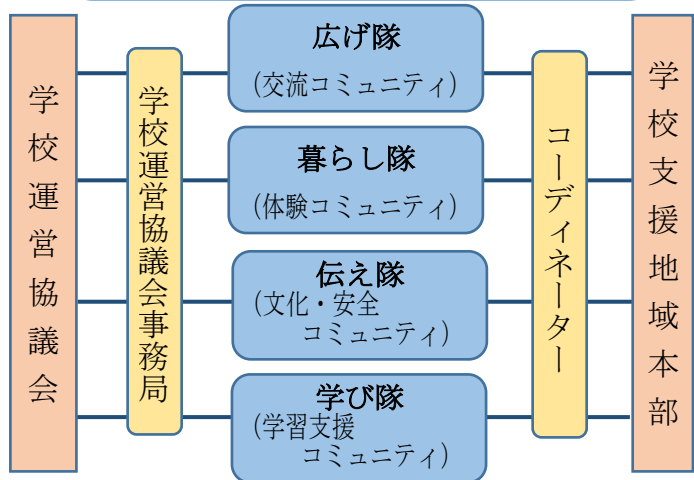


【H21 第3回学校運営協議会の様子】

＜構成＞

- ◇各コミュニティ代表4名
- ◇行政機関代表
- ◇保護者代表小中各1名
- ◇学識経験者
- ◇小中学校長各1名
- ◇教育委員会が必要と認める者若干名

- ◇ 「学校応援隊」（文科省委託：学校支援地域本部事業）の展開とともに、平成21年3月31日、地教行法に基づき学校運営協議会を設置し、産山小・中学校をコミュニティ・スクールに指定
- ◇ 平成21年度から学校支援地域本部事業（学校応援隊）における4つのコミュニティと連動した学校運営協議会による学校・家庭・地域が連携した小中一貫教育を展開



平成22年度（2010）

- ◆ 全教室に電子黒板配置、**ICT活用の研究開始**
- ◆ 日教弘論文「**小中一貫教育の推進**」全国優秀賞



授業公開とともに、導入式を開催



小中学校職員へのICT活用に関する研修

- ◇ 教育振興計画に学校における情報教育の充実と機器の整備を掲げ、県下初の全普通教室、小中理科室、特別支援教室にICT機器（電子黒板・書画カメラ・授業用ノートパソコン）を導入。平成22年3月5日導入式と授業公開を行う。
- ◇ 平成22年度より、児童生徒の学力向上に向けたICT活用の研究が始まる。

平成23年度（2011）

- ◆ 西日本で初の**土曜授業を開始**
- ◆ 県教委指定**教育課程研究推進校（理数教育）研究発表会**



ICTを活用した、理数教育研究発表会



- ◇ 平成24年度から完全実施となった新学習指導要領に対応し、産山の特色ある教育活動を推進するため、管理規則を変更し、西日本で初の土曜授業を開始
- ◇ 11月に教育課程研究推進校（理数教育）研究発表会でICTを活用した授業を公開

平成24年度(2012)

- ◆ 第1回小中合同入学式
- ◆ ヒゴタイ交流25周年(交流受入)

- ◇ 初めて入学式を合同開催
- ◇ ヒゴタイ交流が25周年を迎え、派遣生10名、引率教師2名と随行団43名が来村。10月9日に25周年記念式典を開催



派遣生10名、引率教師2名と随行団43名が来村



小中両校長の前で、挨拶をする1年生と7年生



平成25年度(2013)

- ◆ 保育園を教育委員会に移管 **保小中一貫教育スタート**
- ◆ 「産山村教育情報ビジョン」策定
- ◆ **学習発表会の小中合同開催**

- ◇ うぶやま保育園の所管を住民課から教育委員会に移管し、県下初の保小中一貫教育がスタート
- ◇ 教育委員会に教育情報化推進会を設置し、「産山村教育情報化ビジョン」を策定
- ◇ タブレット120台、無線LANの整備、電子教科書の配備等に加え、学校常駐のICT支援員を配置



タブレット一人1台の環境



中学生の保育実習



小中教員の保育実習

平成26年度(2014)

- ◆ ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクト研究発表会
- ◆ 第1回小・中学校卒業式・プレ7年生の実施



7年生からの生活ルールや学び方の説明を受けるプレ7年生(プレ7年生説明会)

- ◇ 平成27年2月に、ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクト研究発表会を開催
- ◇ 3月には小・中合同の卒業式を挙行。通常より早い卒業式を迎えた6年生は、卒業した9年生の教室で、中学校の生活リズムとルールに慣れながら、残りの教育課程を履修

平成27年度（2015）

- ◆ 産山村家庭学習の手引き発行
- ◆ 「うぶやま夢塾」開校
- ◆ 「未来の学校」創造プロジェクト研究発表会
- ◆ 学校運営協議会が文部科学大臣賞受賞
- ◆ 学校情報化優良校認定（日本教育工学協会）
- ◆ 小中一貫教育 第1期卒業生が卒業
- ◆ 英語検定「優秀団体賞」受賞



「うぶやま夢塾」開設
H28年夏季休業中は、小学校6日、中学校13日開設され、小中学生のべ485名（小：163 中：322）が受講



- ◇ 産山村家庭学習の手引き「0歳から15歳までの家庭学習」が完成。家庭と保育園・学校が連携した家庭学習の習慣化の取り組み開始。また、大学生、教員OBなど地域住民の協力を得て、地域未来塾（文科省・県事業）として「うぶやま夢塾」を開設
- ◇ 電子黒板などのICT機器の導入、タブレット端末を整備した授業改善、県教委の「未来の学校」創造プロジェクトの取り組みなどの長年の実績が認められ、「学校情報化優良校」に認定される。さらに日本英語検定協会の「優秀団体賞」に選出される。
- ◇ 小中一貫教育のなかで9年間学んだ第1期生（平成19年度入学）が卒業



一貫教育で9年間学んだ第1期生（6年生とともに次のステップへ）

平成28年度（2016）

- ◆ 5年生より英語科導入（教育課程の変更）
- ◆ うぶやま天文台完成（子ども議会提案による）
- ◆ 学校情報化先進地域認定（日本教育工学協会）
- ◆ 産山村小中一貫教育10周年記念式典
- ◆ 「学力向上推進地域」研究発表会（11/17 予定）



うぶやま天文台に集う卒業生（H28/8/15 産山村成人の日）

- ◇ 教育課程特例校における教育課程を変更し、5年生より中学校英語科の実施
- ◇ うぶやま天文台が完成。子ども議会での提案した平成23年度卒業生が成人の年に夢が実現

産山村のキャラクター「うぶちゃん」は、平成22年度の子ども議会における9年生の提案がもととなって、公募されて誕生しました。



Ⅲ 産山の特色ある教育とその成果

1 二学期制によるきめ細やかな評価（PDCAサイクル）

学年始休業日	4/8 ~7/20	夏季休業日	8/26 ~10/6	秋季休業日	10/13 ~12/22	冬季休業日	1/8 ~3/25	学年末休業日
前期				後期				

P→D→C・A P→D→C・A P→D→C・A P→D→C・A P

<PDCAサイクルによる確かな変革>

- ◆ 前期前半・後半、後期前半・後半の4つの学びのサイクルを生かした学校経営
- ◆ 児童生徒・教員の4回の自己評価による改善と新たなアクション
- ◆ 通知表（あゆみ）による学習の様子等のお知らせ
- ◆ 学校運営協議会による評価と学校経営の改善

2 保小中一貫教育による学びの連続性（保・5・2・2制）

保育園	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
幼児期	前期					中期		後期	

夢への芽生え期

夢への助走期

夢への疾走期

夢への跳躍期

<「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消>

- ◆ 保・5・2・2制により、保育園、小・中学校のスムーズな接続を生み出す

3 特色ある教育課程

	前期					中期		後期	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年中1	8年中2	9年中3
英会話科	20	20	35	35	35	35	35	35	35
英語科					35	35	140	140	140
うぶやま学	34	35	35	35	35	35	35	35	35
チャレンジ学習			35	35	35	35	35	35	35

<夢を広げ・伸ばす独自の教育課程>

- ◆ 教育課程特例校認定により、他校にない特色ある教育課程を編成
- ◆ 平成28年度より、中学校英語科を5年生から実施

(1) 早期の英語教育（ヒゴタイイングリッシュ）

<英会話科>

1～9年生まで、9年間で教科として学習



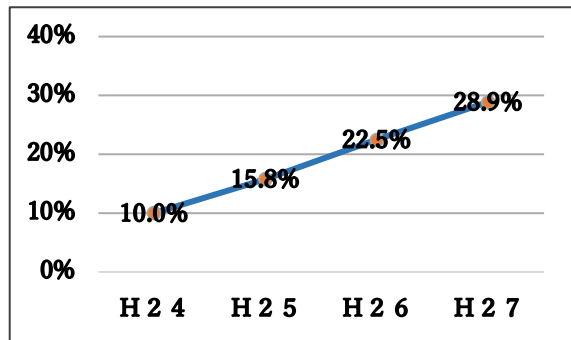
<英語科>

5・6年生で「中学校英語科」を先行実施

<中学生英語暗唱大会の10年間の成績>

H21	郡市大会	1年生・3年生の部最優秀賞
	県大会	1年生の部3位入賞
H25	郡市大会	3年生の部最優秀賞
	県大会	3年生の部優勝
H26	郡市大会	1年生の部最優秀賞
	県大会	1年生の部5位入賞
H27	郡市大会	1年生の部最優秀賞

<英検3級以上合格者の割合の推移>



(2) 夢の実現に向け、自己の生き方を考えるキャリア教育（うぶやま学）

<うぶやま学>

地域との連携や地域人材の活用を通して、体験を重視した学習を展開。豊かな心を育むとともに、産山に誇りを持ち、将来の自己の生き方を考えていく学習



【田植え体験】



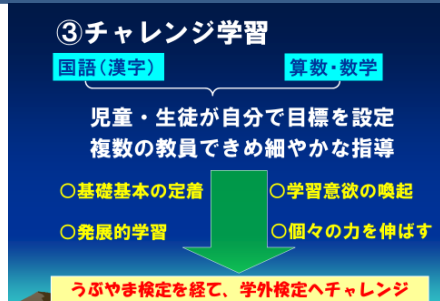
【子どもヘルパー活動】

学年	テーマ	地域	全体活動	時数	学年の活動
1年	うぶやま ^で 学ぶ (うぶやま探検)	地域 自然		34	・外に行こうよ・葉っぱの色が (地域人材等)
2年					・私の村探検・生き物を飼おう・村の人々 (地域人材等)
3年	うぶやま ^を 学ぶ (うぶやまの自然と くらし)	人とくらし	ヘルパー活動	茶摘み 炭入れ 炭出し	・うぶやまのよさを見つけよう (地域人材等) <椎茸>
4年		川			・草原とわたしたち (地域人材等)
5年		草原			・うぶやまの米作りに学ぶ(地域人材等) <鯉農法> <水俣に学ぶ>
6年	うぶやま ^に 学ぶ (うぶやまの生き方)	福祉		35	・お年寄りを訪ねよう・自分を見つけよう (社会福祉協議会等)
7年		福祉			・うぶやまの福祉 (社会福祉協議会・インターワーク)
8年	うぶやま ^は 学ぶ (うぶやまと私たちの 未来)	仕事	「伝統と未来」 ヒゴタイ太鼓 ヒゴタイ交流 浦安の舞 ソーラン節	35	・うぶやまで働く (各事業所等)
9年		未来			・うぶやまの未来を考える (子ども議会、地域人材)

(3) 一人一人が目標に向かって挑戦（チャレンジ学習）

<チャレンジ学習>

- ◇ 「国語」「算数・数学」において、子ども自らが目標を設定し挑戦していく学習
- ◇ 学外検定（漢字検定、算数・数学検定、英語検定）へ挑戦できるシステムを整え、子どもの学習意欲を喚起し、能力の向上を図る学習

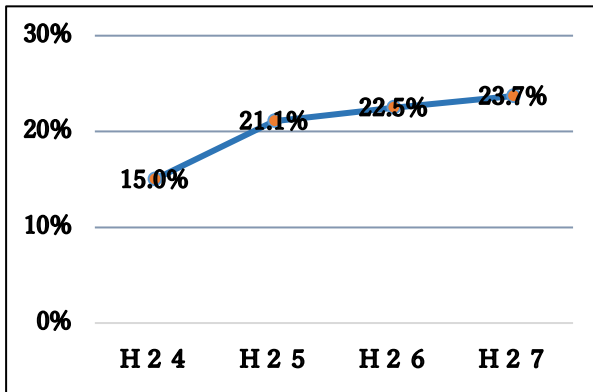


平成22年度より、「うぶやま検定」をなくし、「外部検定」への挑戦に

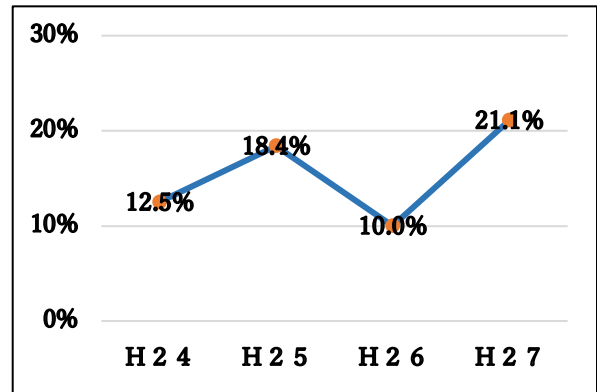


小中教員による複数指導体制

<漢検3級以上合格者の割合の推移>



<数検3級以上合格者の割合の推移>



4 学びをつなぐ連携システム（チーム産山）

兼務辞令の発令により、小中連携システムを確立。下記の取組を可能に

- ① 中学校教員の小学校乗り入れ授業（教科担任制）
- ② 合同行事開催と相互共通指導
- ③ 授業の複数指導体制
- ④ 小中合同研修（産山村教育研究会）

<教科担任制>



【5年生音楽の授業】

英語科・英会話科に加え、理科・音楽・体育・図工の小学校の授業を中学校教員が専門的に指導（乗り入れ授業）

<合同行事>



【学習発表会の全員合唱】

入学式・卒業式等の儀式的行事の他、体育祭、学習発表会、持久走大会等、1年～9年生で実施

<複数指導体制>



【数学の授業風景】

チャレンジ学習、ヒゴタイイングリッシュの他、中学校教員が乗り入れ授業を行っている学級の担任は、中学校の授業の支援・補助へ

5 ICTを活用した確かな学び ～ICTを効果的に活用し「好き・わかる」授業をめざす～

- ◇ 「言葉で伝える以上にわかりやすい」「見えないものを見るようにすることができる」「情報の共有ができる」など、ICT機器のよさを生かし、「好き・わかる」授業を創造
- ◇ 児童生徒は、意欲的な調べ活動のほか、自分の考えと他者の考えを比較したり、わかりやすく友達に伝えたりするなど、考えを深め、主体的に学習を進めるためのツールとして活用
- ◇ デジタルとアナログを組み合わせた効果的な活用を継続研究



ペアやグループで考えを出し合い比べる



自分の考えが伝わるようにみんなに発表



自分の技能や知識をチェック

デジタルとアナログの組み合わせ

<これまでの実績等>

平成24年度 くまもとICTコンテスト ICT活用部門で中学校3作品入賞
 平成25年度 くまもとICTコンテスト ICT活用部門で中学校4作品入賞
 平成26年度 くまもとICTコンテストで産山小・中学校が学校活用部門で優秀賞
 県指定「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト」研究発表会
 平成27年度 県指定「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト」研究発表会
 くまもとICTコンテスト ICT活用部門で中学校作品が入選
 くまもとICTコンテスト ICT学校活用部門で産山小・中学校が入選
 産山小・中学校が、学校情報化優良校に認定（日本教育工学協会）
 平成28年度 産山村が、学校情報化先進地域に認定（日本教育工学協会）

6 地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）

～体験活動を支える4つのコミュニティ（学校応援隊）～

交流コミュニティ（広げ隊）

交流活動を通して、他地域や他国の文化・伝統を理解し、国際社会の一員としての自覚と、ふるさと「産山」や日本の文化・伝統を学ぶ場を支援



ヒゴタイ交流

国際理解教育

海山交流

<海山交流とヒゴタイ交流>

◇ 海山交流は、昭和63年より始まった、産山村と御所浦町の5・6年生が隔年で相互に訪問する宿泊交流体験学習である。相互理解の中で自己の生き方について考えを深める。

◇ ヒゴタイ交流は、昭和63年度より始まった、タイ王国立カセサート大学付属中学校との3週間の相互派遣国際交流で、今年で派遣が28回、受入が29回を重ねる。

平成2年 国際理解教育の成果が認められ第1回「馬場賞」を受賞

平成16年 文部科学省より、第35回博報賞（文化教養育成の部）受賞

平成21年 西日本国際財団より、第4回西日本国際財団アジア Kids 大賞受賞

平成22年 JICA国際協力中高生エッセイコンテスト入選

体験コミュニティ（暮らし隊）



子どもヘルパー



福祉体験活動



農業体験活動



職場体験学習

体験を通して、福祉や将来の進路に関心を持ち、自分たちの暮らしや生き方を考えるための支援

<子どもヘルパー活動>

平成13年度 子どもヘルパー活動が全国表彰を受ける（21世紀・若者大賞）

平成14年度 子どもヘルパー活動が読売新聞社より「きらめきっ子大賞」受賞

子どもヘルパー活動が熊本県より「やさしい街づくり大賞」受賞

平成18年度 産山村小中学校子どもヘルパー活動が「博報賞」受賞（教育活性化部門）

平成20年度 子どもヘルパー活動が、熊本ファミリー銀行より「小さな親切運動実行賞」受賞

平成27年度 熊本県知事より産山村子どもヘルパーに感謝状

文化・安全コミュニティ（伝え隊）



少年消防隊



ヒゴタイ太鼓



浦安の舞



ソーラン節

産山村の伝統・文化を守り伝える活動や地域の安全を守る活動を通じた、産山を愛する心を育てるための支援



登校安全

＜少年消防隊＞ 昭和28年4月1日発足
 昭和48年度 産山中学校少年消防隊が消防庁長官表彰を受賞
 昭和53年度 産山中学校少年消防隊が消防庁長官表彰を受賞
 平成11年度 全国少年消防クラブ運営指導協議会から優良少年消防隊として表彰
 平成25年度より 小学校6年生以上の児童生徒で編成

学習支援コミュニティ（学び隊）

環境、食育、地域等に関する学習の支援や、読書に親しむ態度を育てるための支援



子ども議会



地域学習



親子すくすくツアー



読み聞かせ

＜おはなしポッケ＞

平成23年度 産山村の読み聞かせグループ「おはなしポッケ」は、文部科学省より、読書活動優秀団体として表彰される。

学校運営協議会には学校応援隊として、児童生徒に関わり、支援していただいている各コミュニティの代表者が委員に加っている。

学校経営方針等の承認とともに、様々な課題の解決や児童生徒のよりよい成長に向けた具体的な活動や支援を通して、協働した取組を推進している。

学校運営協議会の運営

＜構成＞◇各コミュニティ代表4名 ◇各行政機関代表 ◇保護者代表小中各1名
 ◇学識経験者 ◇学校長小中各1名 ◇教育委員会が必要と認める者

- 学校運営の概要説明と質疑及び承認
- 児童生徒の状況及び課題の共有

学校教育活動の支援・参観・評価

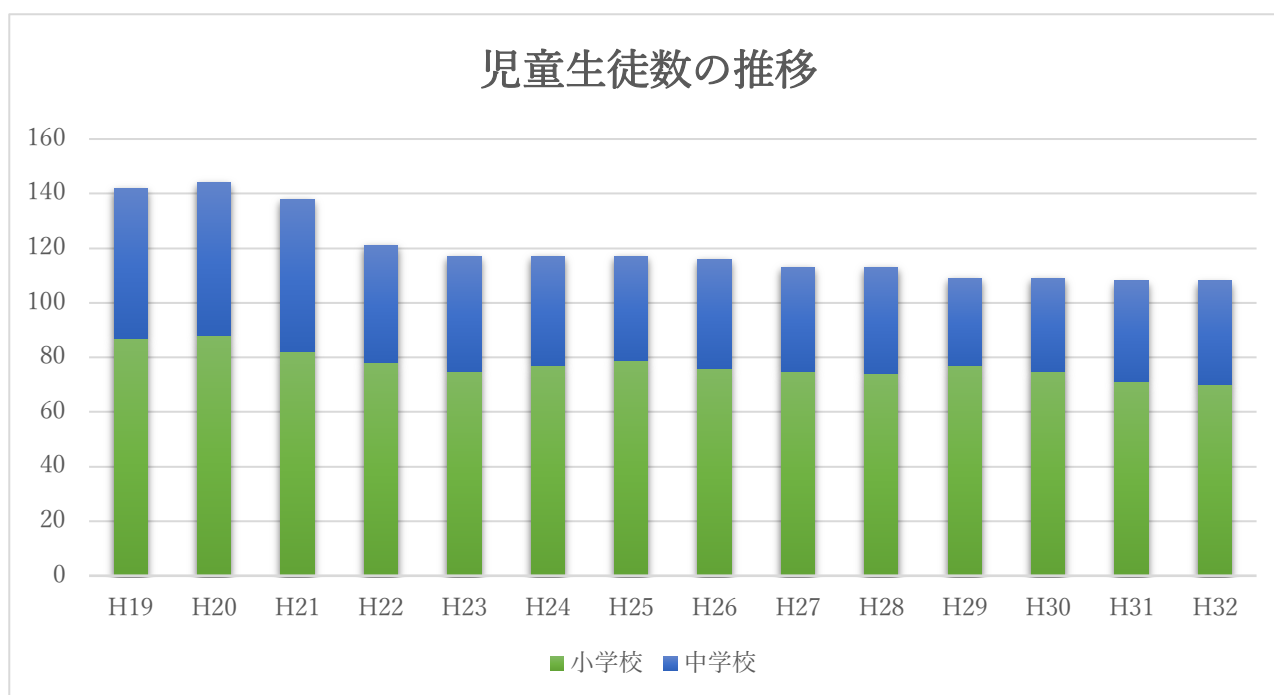
- 前期の反省と後期への指向

学校教育活動の支援・参観・評価

- 学校経営状況の説明と質疑及び承認
- 本年度のまとめと次年度の方向性

【資料：児童生徒数の推移】

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
小学校	87	88	82	78	75	77	79	76	75	74	77	75	71	70
中学校	55	56	56	43	42	40	38	40	38	39	32	34	37	38
合 計	142	144	138	121	117	117	117	116	113	113	109	109	108	108



< 校 歌 >

産山村立

産山小学校校歌

作詞 産山村教育研究会

作曲 渡辺 光子

一、希望の光 新しく

阿蘇に九重に 降り注ぐ

山が産まれた 古里に

ウイ ハブ ア ドリーム

(くりかえし)

共に拓こう 産山小学校

二、学びの声も さわやかに

ヒゴタイの花 ゆれている

笑顔輝く 学舎に

ウイ ハブ ア ドリーム

(くりかえし)

共に育とう 産山小学校

三、山河の息吹 美しく

果てることなく 湧く清水

夢がひろがる 大空に

ウイ ハブ ア ドリーム

(くりかえし)

共に伸びよう 産山小学校

産山村立

産山中学校校歌

作詞 山口 白陽

作曲 有馬 俊一

一、大地の屋根と そそり立つ

九重に祖母に大阿蘇に

わき立つ雲を見晴らして

鍛う 産山中学の

われらに燃ゆる 望あり

二、河鹿の声に蛍火に

泳ぎにつりに親しめる

山鹿の川の鳴るところ

磨く 産山中学の

われらに躍る 力あり

三、郷土の幸を開きたる

父祖(みおや)の道の輝きに

理想の村をめざしつつ

進む 産山中学の

われらに固き 誓あり



